



保安防災

四日市工場

四日市工場は古い設備が多く、潜在的な危険を認識し、対策を講じるべくリスクアセスメント(What if手法：もし～が起こったら)を推進しています。また、地震、火災等の発生を想定した四日市市南消防署との特別防災訓練を実施し、一般の方にも公開しています。残念ながら2017年2月に協力業者によるタンク撤去工事中に、溶断中の火花が廃材に引火してしまいましたが、消火器1本で鎮火し、人的被害、外部への影響はありませんでした。

中央研究所

自衛防災団本部隊の技術および知識の向上を図る目的で防除活動班、救援救護班を湖南広域西消防署に派遣し、ポンプ操法および普通救命の講習を実施しました。研究所では防災団組織のレベルアップのため外部講習等に積極的に参加します。



特別防災訓練



救急救命講習



労働安全衛生

労働災害の状況

四日市工場での2016年度の災害件数は9件(休業3件、不休6件)で、2015年度の3件(休業1件、不休2件)と比べ、発生件数は6件増えました。作業前の危険予知(KY)、リスク低減

措置対策の不足が原因でした。

なお、中央研究所では2016年度の労働災害はありませんでした。

四日市工場

ヒヤリハット1人1件活動・指差呼称の推進

「ヒヤリハット1人1件活動」を推進しています。職場の危険・有害リスクを抽出するだけでなく、低減措置を実行して安全な作業の確保を目標にしています。また「指差呼称」も強化しています。工場全従業員が指差呼称を実践する場所として、工場正門付近の横断歩道とし、横断時は左右を指差呼称して確認する取組みを行っています。

協力会社への安全教育等の安全配慮

設備工事等で入場する協力会社に対して、場内での事故等を未然に防止することを目的に場内ルール等の教育を行い発注者としての安全責任を果たしています。



2017年度安全衛生スローガン